

小さな 小さな クリスマス、2000年前のクリスマス



世界で最初のクリスマス、それはまだ誰も知らない小さな出来事
ユダヤのベツレヘムの馬小屋の飼い葉桶で眠るイエス様、
貧しく小さく、暗闇のかたすみで生まれたもう。
父ヨセフ、母マリヤの子どもとして、この世に生まれ出た赤ん坊、
この方こそが救い主、神の御子イエス様。

その日夜空には無数の星が輝いていた。寒い寒い夜だった。野山では
羊飼いたちが羊の番をしていた。その静かな夜空に天使の歌声が響いたという。
あまりにも突然で彼らは腰を抜かさばかりに驚いた。「今宵 救い主がお生まれ
になった。行ってごらんさい」。天使のお告げを聞いて彼らは「本当かな」と
疑いながらも、立ち上がり、出かけ、幼子イエス様を探し当てたのだ。後で分か
ったのだが、クリスマスの知らせを一番に聞いたのは当時の社会で貧しく暮らし
ていたこれらの羊飼いたちであった。彼らは赤子御子イエスさまにお会いでき、と
ても幸せだった。そして、喜び勇んで、又もとの仕事に戻っていった。

星の博士たちも東の国(現代のイランあたり)からラクダにのってやってきた。彼ら
は不思議に輝く大きな星を発見したという。その意味を知りたくて、砂漠を越え、
長い冒険の旅をして、やっと馬小屋にたどりつき「幼子のイエス様」にお会いした。
「あの星は救い主がお生まれになったしるしの星だったのか、苦勞して旅をして
きてよかった」、博士たちは星の意味が分かり、幸せだった。この時のために大
切に持ってきた自分たちの宝物をイエス様に捧げたのだ。心の中に自信と力が
あふれてきた。今度は来た道と違う道を通して東の国へと帰って行ったという。

むかし むかし 星の輝く 寒い夜、救い主は貧しく小さく生まれたもう。

.....クリスマスだから.....

クリスマスだから 考える たくさん たくさん たくさん
悲しんでいる人のこと

クリスマスだから 考える どうして どうして どうして
悲しいことがあるのかな

.....

詞 坂田寛夫 曲 服部公一.....